

がけ地近接等危険住宅移転事業のご案内

— 危険ながけ付近にお住まいの人の移転にかかる補助制度 —

1 制度の概要

がけ地の崩壊、土石流、雪崩、地滑り、津波、高潮、出水などで、住民の生命に危険を及ぼす恐れのある区域内に建っている危険住宅を安全な場所に移転を促進するため、国と地方公共団体が移転者に危険住宅などの除却に要する経費と新築する住宅の建設や土地の取得などに要する経費に対して補助金を交付する制度です。



2 危険住宅とは

がけ地の崩壊、土石流、雪崩、地滑り、津波、高潮、出水などの危険が著しい区域内にある住宅をいいます。鳥取県では次の区域内にある住宅が対象となります。

- ① 条例に基づき指定した災害危険区域
- ② 条例で建築を制限されている区域（いわゆる「がけ条例」の区域）
- ③ 土砂災害特別警戒区域

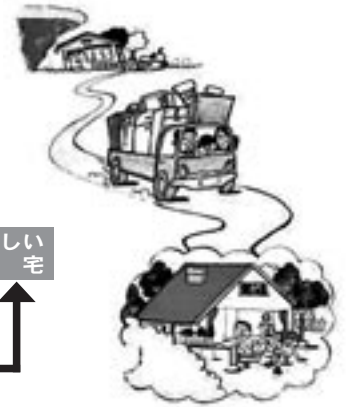


3 補助金は 平成 17 年度は次のとおりとなります。除却等費

危険住宅の撤去費及び移転などに要する費用を補助します。
一戸あたり補助限度額 78万円

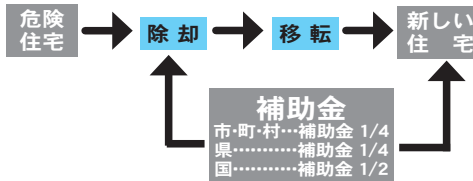
建物助成費

危険住宅に代わる住宅の建設または購入（これに必要な土地の購入も含まれます。）のため、金融機関などから融資を受けた場合、借入金の利子相当額を国、県、市町村が補助します。（利率は8.5%を限度とします。）



① 倉吉市の場合

一戸あたり補助限度額	708万円
ただし、建物の限度額	444万円
土地の限度額	206万円
造成の限度額	58万円



4 申請は 建築課指導係の窓口で行っていただきますが、補助の対象となるかどうか、あらかじめ建築課指導係にご相談ください。

※問い合わせ先 建築課指導係 (☎ 22-8175/ ☎ 22-8140)

10月18日、鳥取市で開かれた「統計の日」記念式典で岸本岩男さん（国分寺）が農林水産大臣から感謝状を受けられました。これは、農林水産統計業務に協力した人に贈られるもので、岸本さんは農業経営統計調査農家として毎月の労働時間などを詳細に記帳された功績で受賞となりました。



統計調査への協力で
農林水産大臣から感謝状
岸本岩男さん（国分寺）

長年にわたり「倉吉絆」の技術の伝承と発展に寄与されてきた福井貞子さんが10月13日、貴重な伝統文化に貢献され、地域で優れた業績を残された人に贈られる伝統文化ポラ賞地域賞を受賞されました。



第25回伝統文化ポラ賞
地域賞を受賞されました
福井貞子さん
（倉吉絆保存会会長）

●注意!

訴訟を装ったハガキによる請求が横行

「債務不履行による民事訴訟として運営会社から訴状が提出された」などの、身に覚えのない料金をハガキで請求された、という相談が依然後を絶ちません。

◆見知らぬ業者・団体には一切連絡しない

こちらから連絡をし、電話番号を知られてしまったら、今度は電話で、執拗な脅迫や高額な請求を受ける可能性があります。

◆身に覚えのない請求には絶対に応じない

一度支払ってしまうと取り戻すことはほぼ不可能です。

◆実際には裁判にはなっていません

本日に訴状が提出されたときは、裁判所から封書で詳細な内容が分かる文書が、特別な郵便方法で配達されます。相手のうそにだまされてはいけません。

●相談は・・・ 中部消費生活相談室

受付時間

午前8時30分～午後5時

倉吉市駄経寺町 倉吉未来中心1階

☎ 22-3000

☎ 47-6393

*土日祝日は休館。第3月曜も休館ですが、電話相談は受付しています。



服部 秋の大収穫祭!

10月16日(日)、服部「秋の収穫祭」が行われました。今年で、9回目を迎える収穫祭は、馬場克之実行委員長を中心に服部のみなさんがそれぞれの部門を担当しながら、地域全員で取り組んでいます。

この日は、前日の雨が嘘のような快晴となり、開場の9時からたくさんの方が押しかけました。

大根収穫体験は、今回5回目となりますが、上古川の大谷英明さんご家族は、「今年が初めての参加となりますが、こんなにぎやかだとは思いませんでした。」と感想を話されました。



第5回加藤伸一 少年野球教室の開催

倉吉市出身で、昨年大阪近鉄バファローズを引退された、加藤伸一さんを講師に、倉吉市野球振興協議会が主催し、スポーツ少年団指導者協議会のメンバーが中心となり、実行委員会を組織し、市内のスポーツ少年団の子どもたちを対象に開催します。

とき 11月6日(日)午後1時～
ところ 倉吉市営野球場

対象 市内スポーツ少年団野球部
講師 加藤伸一さん(元大阪近鉄バファローズ)、金田政彦さん(楽天イーグルス)、山崎慎太郎さん(近鉄→広島→元オリックス)、五十嵐章人さん(ロッテ→オリックス→元近鉄)

当日の観覧は自由です。みなさんご来場ください。

※問い合わせ先：市民スポーツ課
(☎ 22-8167/☎ 22-5684)



「やって文化! 見て文化!」

せきがねさいとりさし保存会

せきがねさいとりさしは、鳥取県から「民俗無形文化財」の指定を受けており、我々保存会は、この郷土に伝わるすばらしい芸能を絶やすことなく伝承し、保存していきたいと活動しています。また、平成13年度からは、後継者育成の取り組みとして、子どもたちに演技指導などをおこなっており、その練習の成果を市内各地区のお祭りおよび施設訪問などで披露し、市民に「さいとりさし」に親しみを持っていただくよう頑張っているところです。

さいとりさしの唄、おどり、三味線、拍子木など、一緒に活動してみたい人を募集しています。やる気がある人の参加大歓迎です!! (練習日:毎週水曜日) 事務局:瀬尾 (☎ 45-2601)



倉吉市の文化団体を紹介します
～今回のキーワード:関金地区の郷土芸能～

関金田植唄おどり伝承保存会

関金田植唄おどりが末永く保存されるよう芸能の保護、並びに援助することを目的として結成されました。現在、月1～2回関金総合文化センターで練習を重ね、技術の向上と会員相互の親睦を図りながら活動しています。

昭和39年に全国青年大会郷土芸能の部で最優秀賞を受賞して以来、県内外で開催される各種イベントの招待を受け「関金田植唄おどり」を披露しています。平成9年には、県から「とっとりの誇り100選」としても認定を受けました。年間を通じて会員を募集していますので、関金田植唄おどりに興味のある人は事務局までご連絡ください。事務局:笠原 (☎ 45-2119)



ハート・バリアフリー

倉吉市人権文化センター

☎ 22-4768/ ☎ FAX 22-4901

No. 13

同和保育と人権



乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期です。身近な大人が「人権」を大切にされた言動でどのように対応しているかが、子どもの人権感覚を育てる大きな要素となっていると言えます。今回は、就学前教育について考えてみましょう。

同和保育とは…

同和保育は、1960年代後半ごろから被差別部落の親たちが、子どもたちの保育・教育と就労保障を求めてはじまりました。そして、被差別部落の子どもたち、「障害」のある子ども、外国籍をもっている子どもなど、すべての子どもの心身の全面的な成長発達と、差別をなくす展望をもち、解放に向けて行動のできる人間を育てることを目標とした保育へと発展してきました。

倉吉市内の幼稚園・保育園では

同和保育は被差別部落の子どもだけの保育ではありません。同和保育は保育の原点ですが、同和保育の取り組みの中で行政面でも大きく変わってきました。「障害」のある子どもや外国籍の子どもが入園できるようになり、積極的な支援が行われるようになりました。保育園では、どの園でも未満児の赤ちゃんも受け入れるようになり、病後児保育や休日保育・一時保育・延長保育なども取り組まれるようになりました。



▲元気に清掃する子どもたち

また、幼稚園・保育園と学校・地域など各種機関との連携を図り、校区ごとに研修や話し合いを持つことで、指導の一貫性をもって子育てを進める取り組みが行われるようにな

りました。

子どもたちの生活の中から

力の弱い子どもをいじめ、逆に強い子どもにはおもちゃを差し出して機嫌をとるなどの力関係は、すでに1〜2歳ごろから生じ、4〜5歳になると、子どもたちの中で「悪いことをするのは〇〇ちゃん」といったきめつけや、遊びから排除されるような形が出来上がっていきます。遊びは子どもの生活だからこそ、ほっておいては人権の感性は育ちません。保育現場では、それぞれ子どもたちと十分に話し合う中で、偏見やきめつけに気づかせるようにしていきます。そうしたことを繰り返すことによって子どもたちは、徐々に自分たちで解決していく力をつけていくからです。このように生活の中の具体的な関わりを通して、正しい物の見方や考え方を身につけながら感性を培うとともに、次のような子どもを目指しています。

- ◆いのち(健康)を大切にする子ども
- ◆差別を見抜き、差別を許さない子ども
- ◆友達同士認め合い、力を合わせられる子ども
- ◆働くことの喜びと大切さを知り、生活を切り拓いていく子ども
- ◆豊かな心を持ち、考えて行動する子ども
- ◆平和を願い、いろいろな文化に関心をも

もてる子ども

すべての人たちが連携して

「小さい子どもに難しいことはわからない」と一般的には言われますが、理由や理屈とは無関係に、差別意識や偏見は、幼児が最も信頼しているまわりの大人から、空気のように自然に子どもたちの心の中に入ってくるようになってしまいます。だからこそ、子どもにかかわるすべての大人の人権意識が問われています。

同和保育とは、特別な保育でもなく、難しい保育でもありません。また、幼稚園や保育園だけで行う保育でもありません。子どもを取りまくすべての人たちが連携して、どんな差別も許さない子どもたちが育つことをねらいとしています。

第28回全国解放保育研究集会

2005年鳥取県人権・同和保育研究集会

日時：11月5日(土)～7日(月)

※鳥取市を中心に開催、2日目の分科会は、鳥取市・倉吉市・湯梨浜町の13会場で開催されます。

詳細については、人権文化センターにお尋ねください。(☎ 22-4768/ ☎ FAX 22-4901)

グリーンスコーレせきがね 新支配人配置

10月14日付で、グリーンスコーレせきがねの人事異動があり、新支配人に太田篤さんが着任されました。

グリーンスコーレせきがねは、3月22日の合併後、倉吉市直営の国民宿舎として営業し、広くみなさんからご利用をいただいておりますが、より一層のサービスの向上を目指して、新体制（運営スタッフ）で臨みます。

（新支配人より一言）

「ご利用される皆さまのご要望にお応えするため、いろいろなプランをご用意させていただきます。」

11月・12月限定で、新しい企画を立てています。忘年会・新年会の時期でもありますので、皆さまのご利用をスタッフ一同お待ちしております。」



文化祭の会場は、韓国4大河川の一つである「榮山江（ヨンスンガ）」のほとりに設けられ、舞台を中心とした場内



高麗時代にタイムスリップした
シンジョンファン 羅州市長
辛正勳

には、展示会場・体験会場、そして屋台など二百張りものテントが設営してありました。

展示会場では、羅州の特産品である梨・米・メロン・塩辛・梨ワイン・桑の実ワインなどが展示され、体験コーナーでは、天然色染め・焼き物・機織り・伝統衣装試着などがありました。特に、伝統衣装は、私たちが知っている朝鮮時代のチマ・チョゴリではなく、約千百年前の「後三国時代」のデザインだったのが印象的でした。

また、朝鮮時代の羅州牧使（当時の県知事）赴任行列がありました。朝鮮時代の軍楽団を演じる専門楽団と羅州市民の皆さん、そして、馬4頭が参加し、韓国3大メディアの一つであるKBSを代表するドラマ監督が演出した本格的な行列でした。

そして、美味しい羅州料理と、おいが強烈なこと有名な「エイ」を食べることができると、見所満載の祭りでした。皆さんも機会があったら、ぜひ榮山江文化祭行ってみてください。後悔しないと思いますよ！



© 谷口ジロー『遙かな町へ』小学館

「開かれた市長室」

倉吉市長 長谷川 稔

「我々の希望は実は我々自身である。それは与えられるものではなく、産み出すものであるから。」これは新市誕生後、初議会での私のあいさつです。市議会議員に選出されるには選挙というトンネルを越えねばならず、わけても今回の合併による拡大した選挙区は坂の上さらに峠を感じさせる状態であったことを想像します。それだけにそれを越えてのご当選に改めて祝意を申しあげます。

ところで市長室を大幅に改修しました。大幅といっても秘書広報課との間仕

切りを広げ、あたかも同じフロアに配置しているようにしたものです。市長はいろいろ、さまざまな電話や来客があります。しかし、どんな場合であれ、職員に聞かれてまずい内容はないはず。むしろ聞かれていない、見られているという意識が一方的な申し入れを断つたり、し意的判断を加えない状況を作っていくと考えたからです。むしろ、市長室はかつて兵庫県の阪本知事が「住民とツバメに開かれた知事室でありたい。」と言われたのを子どもながらに覚えています。パソコンメールで会話するネット社会のなかで、同じフロアで元気のいい声が飛び交う秘書広報課と市長室になりました。



市長室へ小さな子どもたちも訪問します

韓日日記



国際交流員 韓召眞
ハンソジン 韓召眞

文化都市、羅州

10月12日から14日まで、韓国羅州市の招待を受け、「2005榮山江文化祭」に行ってきました。10月になると、韓国全域でお祭りが開かれるので、観光には一番いい時期かも知れません。地方自治体が主催となり開催する祭りは、その地域の伝統文化を生かしたものが多いです。

実は、羅州市が属している「全羅南道」の「羅」は、羅州市の「羅」から由来しているほど、昔の羅州市は朝鮮半島南西地方の中心都市でした。そのため、羅州市の至るところに歴史文化財が残っており、また、戦争などで破損した文化財は、現在、市が積極的に復元しています。

現在の羅州市の人口は約10万人ですが、多いときは、26万人だったこともあるそう、今回の文化祭の趣旨の一つには、祭りを通じてまちを活性化し、昔の名声を取り戻そうという意味もあるようです。

文化祭の会場は、韓国4大河川の一つである「榮山江（ヨンスンガ）」のほとりに設けられ、舞台を中心とした場内